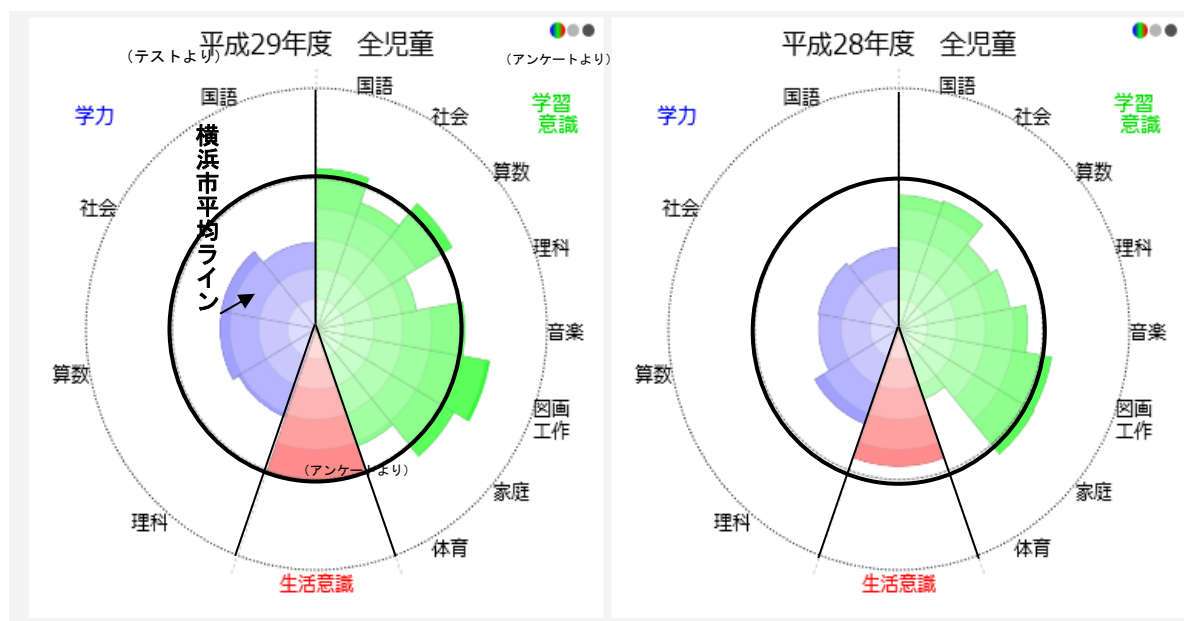


# 横浜市学力・学習状況調査結果についてのお知らせ

## (1) 調査結果の概要とその要因について



上の図は本校の学力・学習意識・生活意識について表したグラフです。色のついている部分が本校の結果です。内側の点線は横浜市内の小学校の平均です。内側の線の外にあれば、平均を上回っており、線よりも内側にあれば、平均を下回っているといえます。

学力については、全体的に横浜市内の平均より下回っていますが、昨年度と比較して、社会や算数の力が伸びている学年が多く見受けられます。また特に算数の「技能」の結果が向上しているのは、本校の重点研究等の「確かな学力」向上の取り組みの結果、昨年度までよりも「基礎・基本」の定着を図ることができたためではないかと思われます。

学習意識は全体的に向上しており、国語・算数・理科・社会においては、学習したことが自分の生活や社会に出てから役に立つと思うと考えている子が増えています。また普段の授業でも積極的に手を挙げて発言するなど、意欲的に授業に取り組む様子が見られます。

生活意識も昨年度に比べて向上しており、早い時刻に就寝したり、朝食を摂取したりする子の割合が高くなっていました。また家庭での学習の時間をとっている子の割合も高くなっていました。

## (2) 教科学習の状況について

- 国語科：「書く能力」「話す・聞く能力」は市の平均程度、もしくはそれ以上にある学年が多いです。また昨年度よりも漢字の読み書きなどの基礎基本的な知識が向上した学年もあります。しかし一方で「読む能力」の結果が市の平均よりも低く、課題が見られることがわかります。この原因としては、言葉や段落をとらえて読んでいないことが考えられます。
  
- 算数科：昨年度に比べ、「算数で学習したことが普段の生活に役立つ」と答えた子も大きく増えています。このことが学習への意欲にもつながり、全体的に結果が向上している学年が多いです。特に「技能」について向上した学年が多く見られます。中には市の平均以上まで大きく伸ばした学年もありました。「基礎・基本」の問題では市の平均以上に正解しているものもある一方で、学習したことを応用する「活用」の問題では課題が見られます。
  
- 社会科：昨年度に比べて、社会科の結果は全体的に向上しています。特に「知識・理解」の結果が向上しています。しかし、資料の読み取りなどの「技能」の問題は昨年度に引き続いて課題が見られます。
  
- 理 科：横浜市の平均を上回る学年もありました。「理科の実験や観察は好きですか。」という質問では、ほとんどの子が「好き/どちらかといえば好き」ですが、横浜市内の子の回答の平均には少し届いていませんでした。また実験器具の操作方法などの「技能」にも課題があるようです。

## (3) 今後について

今後も苦手意識をもたせない支援や、学びの達成感を持たせる工夫を行い続け、学習意識を継続させること、基礎・基本の確実な定着を図るだけでなく、それらを応用して課題を解決できる思考力の育成が必要であると考えます。

そのためにスモールステップによる支援を行い、理解を深められるようにしていきます。また、子どもたちが見通しをもって学習していく工夫や学習課題を理解しやすくする工夫、活動の仕方が分かる工夫など、どの児童も楽しく参加できる、わかりやすい授業づくりを行っていきます。そして、基礎・基本の能力の確実な定着を図り、学習したことを応用して課題を解決することができる思考力の育成に努めて参ります。